

## 監修序

我が国における医療科学技術の発展と普及は多くの国民に安心と安全の医療を提供し、誰でもがその恩恵に浴することが出来るようになってきました。各医療機関の情報公開が進むなかで、国民はさらに今まで以上に安心で安全な医療環境の提供、今まで以上に質の高い医療技術の提供、今まで以上に質の高い患者サービスの提供、医療水準に基づいた診断・治療・検査を求めるようになってきています。このような中で放射線検査・治療のエキスパートを目指す診療放射線技師は各種学会のガイドラインの導入と普及を計り、常に最先端医療技術に眼を向け、日常医療の進化に向けた行動目標を設定しておく必要があります。

平成 22 年 4 月 30 日厚生労働省医政局長から「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」（医政発 0430 第 1 号）の通知が発せられました。主旨は、多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供するチーム医療の実践を求めています。診療放射線技師のところでは「放射線治療・検査・管理や画像検査等に関する業務が増大する中、当該業務の専門家として医療現場において果たし得る役割は大きなものとなっている。以下に掲げる業務については、現行制度の下において診療放射線技師が実施することができることから、診療放射線技師を積極的に活用することが望まれている。①画像診断における読影の補助を行うこと、②放射線検査等に関する説明・相談を行うこと」と通知されています。この度、上梓する『診療放射線技師読影ノート 骨軟部編』は医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進を意識し、日頃各診療科の要望に応じて 3 次元・4 次元画像を作成しているエキスパート診療放射線技師をサポートする内容としてまとめてあります。

本書の特徴は各モダリティにおける読影の基礎、臨床事例、読影問題の三部構成となっており、画像を中心として判りやすく記述されています。本書は読影能力をアップしたいエキスパート診療放射線技師を目指す人達の手引き書として、また医療機関で働く臨床研修医、看護師、理学療法士にも有用な情報が満載されているので是非活用していただきたいと思います。

最後に、大変お忙しい中、本書のご推薦を頂きました昭和大学藤が丘リハビリテーション病院スポーツ整形外科教授・筒井廣明先生に感謝を申し上げます。また、本書の出版にご尽力いただいた医療科学社編集部スタッフに深甚の謝意を表します。

2014 年 8 月 吉日

昭和大学大学院

保健医療学研究科 診療放射線領域

教授 医学博士 中澤 靖夫